

令和7年度 総合教育センター事業目標



「対話」から広がる 新たな教師の学びの姿 の実現

～「磨かん共に」の理念を具現する学び合いを目指して～

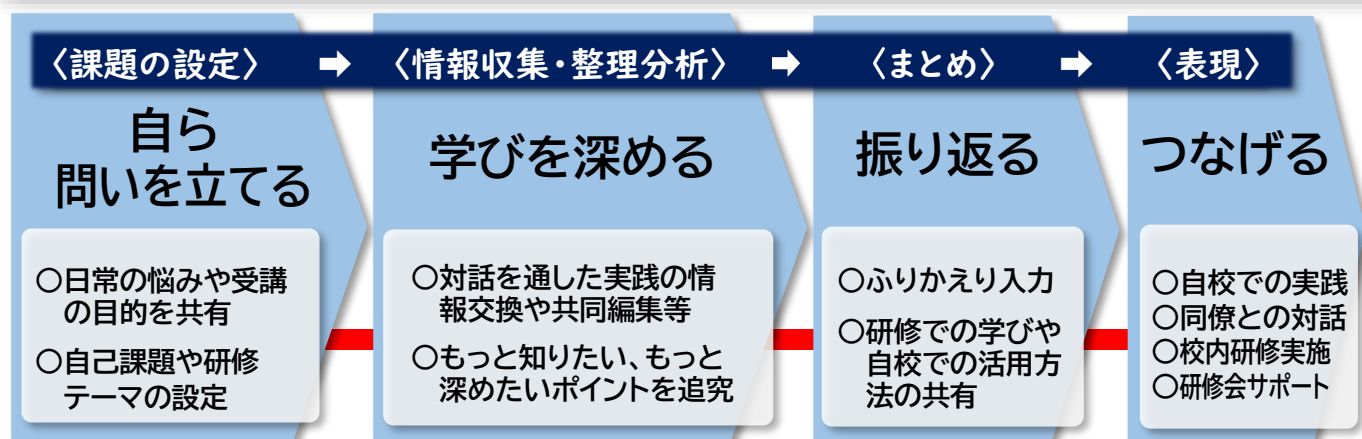
研修講座での受講者のふりかえりから

(前略) 講座の中で、自分の考えを伝えたり、相手の考えを聞いたりする機会がたくさんありました。その度に自分の考えが更新されていく感覚を味わいました。自分一人で考えることが多い現場の仕事でも、同僚に相談することで新たな価値観に気づけるのだと思いました。

共に学び合うことの価値を受講者同士が感じられるセンター研修へ

重点① 探究的な研修の実現 体験的・実践的な学びの充実

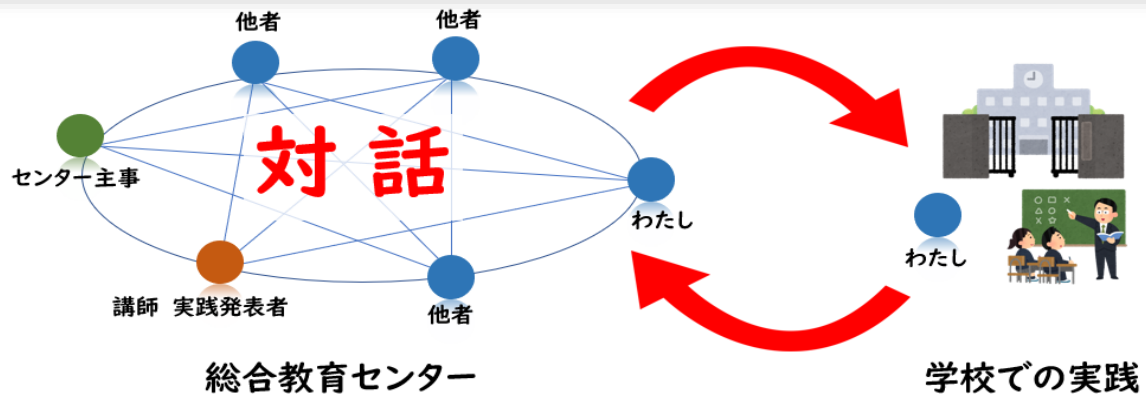
◆インプットとアウトプットを意図的にミックスしながら、
「探究のサイクル」を意識した研修講座を運営していきます



○悩みや目的の自覚化を促し、より自分事として必要感もてる自己課題の設定
 ○模擬授業、模擬体験、指導案作成、教材開発等、学校現場での実践を意識した運営
 ○ICT活用を組み込んだ体験的研修(考えの共有、思考ツールとしてのICT活用の充実)
 ○ふりかえり(研修における自身の気づきや葛藤の記録)の充実 ➡ R7 より全国教員研修プラットフォーム「Plant」へふりかえりを蓄積

重点② 自身の経験や他者の学びを重視した「実践」と「理論」の往還の充実

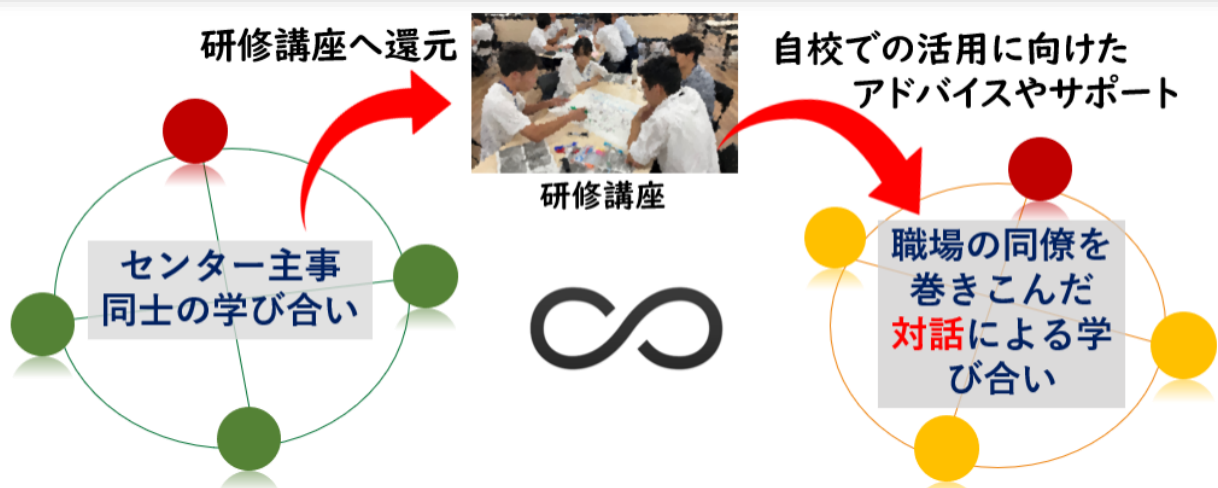
◆お互いの価値観に学び合えるように、「対話」の機会を意図的に設定します



- 受講者、学校におけるニーズや課題等の把握と、それに基づいたグループ編成、対話内容の工夫
- 豊かな気づきを生み出すリフレクション（省察）場面の設定（そもそもの問い直し）
- 対話を促すファシリテーターの位置づけ、受講者の実践につながるファシリテーション力の育成
- 広がり、深める教材の選定（対話の材となるテーマや資料等の工夫）

重点③ 研修や視察、調査研究等で得た学びの還元と同僚との学び合いに向けた研修の充実

◆一人の学びを多くの同僚と共有し、組織力の向上を目指していきます
【センター主事同士の学び合いと学校現場の同僚同士の学び合いは相似形】



- 主事研修や県内外への視察、調査研究等から得た学びの共有（所員会等）と、研修講座や学校現場への還元
- 教職員研修会サポートをすべての研修講座に適用し、校内研修への支援を拡大
- 学校の組織づくり（支え合える・学び合える風土）につながる働きかけ
- Plant、ホームページ、所報、資料室等における最新の情報、最先端の取組等の発信